

横浜美術館 平成21(2009)年度企画展スケジュール

※本スケジュールは予定であり、変更される場合があります。

注目の若手現代美術家、初の個展

金氏徹平：溶け出す都市、空白の森

会期：3月20日(金・祝)～5月27日(水)

広告写真やプラスチック製品、フィギュアなど、既成のイメージやモノを解体し、再構成するコラージュ作品で、近年高い注目を集める金氏徹平(かねうじ・てっぺい)の初めてとなる大規模な個展。作家初の試みとなるドローイングと実写を組み合わせたアニメーションによるビデオ・インスタレーションを核に、会場全体がダイナミックなひとつの空間に生まれ変わる。会期中はパフォーマンスなども開催。



金氏徹平《tower》2008年
インク・紙・コラージュ 73×51cm 作家蔵



ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングル&アレクサンドル・デゴッフ
《パフォスのヴィーナス》1852年頃 オルセー美術館
(c)Photo RMN/H.Lewandowski/digital file by DNPartcom

横浜開港150周年記念／開館20周年記念

フランス絵画の19世紀 美をめぐる100年のドラマ

会期：6月12日(金)～8月31日(月)

この展覧会は、17世紀以来のフランス古典主義絵画の伝統が、ダヴィッド、アングルらの新古典主義を経由して、次の世代へといかに継承され、19世紀の市民社会の中でいかなる変容と開花を遂げていったのかを明らかにし、印象派等を含めた革新的絵画運動と対比させます。

横浜開港150周年記念／開館20周年記念

大・開港展—徳川将軍家と幕末明治の美術

会期：9月19日(土)～11月23日(月・祝)

この展覧会は、開港・開国にともなう政変の大きなうねりを背景にして、わが国が芸術文化において、徳川将軍家の時代から何を受け継ぎ、明治という近代国家体制の中で新たに何を生み出していったのかを、さまざまな美術品や史料を通して明らかにすることを目的とします。展覧会は、封建体制下における政治・文化の頂点に君臨した徳川将軍家ゆかりの史料や美術品と、明治にはいつて中央集権体制の中心に位置づけられた皇室への献上美術品や皇室の御買上美術品などを核にして、これに幕末・明治期の絵画・彫刻・工芸・写真・版画などの視覚美術や史料を加えて構成されます。



初代 宮川香山《高浮彫牡丹ニ眠猫寛蓋付水指》
明治前期(19世紀後半) 陶器、田邊哲人コレクション



束芋《悪人》より、2006-07年
Courtesy of the artist and Gallery Koyanagi

開館20周年記念

束芋展—断面の世代—(仮称)

会期：12月11日(金)～2010年3月3日(水)

束芋は、銭湯、台所、通勤電車など、日本の生活空間で繰り広げられるさまざまな情景を、独特のタッチで描き出したアニメーション作品で世界的に注目を集め、近年は、より内的な世界へと表現の幅を拡げています。本展は、新作アニメーションによる大規模なビデオ・インスタレーション数点を含む、過去最大規模の個展です。今回は作家自身も属している1970年代以降、昭和後期に生まれた世代を「断面の世代」と名付け、微細な事物や僅かな差異への執着心という観点から新作を制作します。また、同世代の様々なアーティストとの共同制作も予定しています。